

【参考資料：地区別ワークショップ関連記事】

●令和元年8月19日 熊本日日新聞

紙人形劇を披露する。  
(樋口琢郎)

町づくり方針  
住民が考える  
荒尾市12地区で  
ワークショップ

荒尾市は17日、町づくりの基本方針となる「第6次総合計画」(2020～25年度)の策定に向けたワークショップを、中央地区協議会を皮切りに始めた。住民が町づくりの方向性を検討する。市内にある12地区協

議会で11月までに各3回ずつ開き、協議会ごとに地区別計画をまとめる。地域住民と行政が課題と解決策を共有する狙い。

この日は中央区団地集会所であり、約20人が参加。市の担当職員が計画の策定方法を説明した。続いて住民たちは4グループに分かれて「自治会を抜ける人が多く、役員のみ手がいない」「イベントに協力する人が少ない」「子ども会がなくなつた」など地域の課題を紙に書き出した。

2回目で解決策を考える。各地区の開催日時と会場は市のホームページに掲載。市政企画課 ☎0968(6)1273。  
(樋口琢郎)

0968(63)0189  
南関支局  
TEL 0968(53)0953  
FAX 0968(53)3240  
阿蘇総局  
TEL 0967(22)0142  
FAX 0967(22)4001  
高森支局  
TEL 0967(62)0008  
FAX 0967(62)3223  
小国支局  
TEL 0967(46)2271  
FAX 0967(46)4495  
山都支局  
TEL 0967(72)0253  
FAX 0967(72)0737

地域課題について話し合ったワークショップ  
＝荒尾市



●令和元年8月28日 有明新報

# 地区の課題、魅力は

行政とワークショップ重ねる

## 総合計画 策定で住民集い意見交わす

地域の未来を考える「地区別ワークショップ」が、荒尾市内の各地区で開かれている。次の市総合計画(2020年度から25年度まで)策定と併せて地域づくり計画もまとめることになつているため、住民の考え方や意見、要望を把握し、地域と行政による協働のまちづくりをさらに進めるのが目的。

市と市内12の地区協議会が共催し、1地区で3回開催。地区の課題、魅力を考える1回目が始まつている。地区担当する市職員に加え、市社会福祉協議会職員も高齢化に伴う課題などを把握しようとサポートしている。

25日には緑ヶ丘地区が、あおシティモール2階のシテイホールで行われた。40人を超える参加があり、親子連れも見られた。八つのテーブルが用意され、参加者はテーブルを代わりながら、紙に課題や魅力を書き出す「ワールドカフェ」の方式で熱心に話し合つていた。

最後にそれぞれのテーブルで意見を発表。課題として「交通事故が多い」「バスの本数が少ない」「自治会役員のなり手がいない」「空き家が多い」「居住している地域の高齢化率が高い」「魅力では買い物やすい」「緑が多い」「金融機関が近くにない」「グリーンランドに近い」などが挙げられた。

1回目のワークショップ

は9月7日まで。2回目は、目では浅田敏彦市長(3役)課題解決や魅力アップのためにもう一回目までのまとめを聞かなくてはならないと、住民自身も、住民と共に取り組む。3回目は、(高本明)

緑ヶ丘地区の課題や魅力を話し合う参加者

荒尾



【参考資料：荒尾未来づくり会議関連記事】

●令和元年 8月 28日 熊本日日新聞

# 荒尾の「好き」「嫌い」は

## 中高生 市総合計画に注文

荒尾市は27日、町づくりの基本方針となる「第6次総合計画」(2020～25年度)に若い世代の意見を反映させるため、市内の中高生約50人を対象としたワークショップを市役所で開いた。同市の総合計画で、中高生が参画するのは初めて。

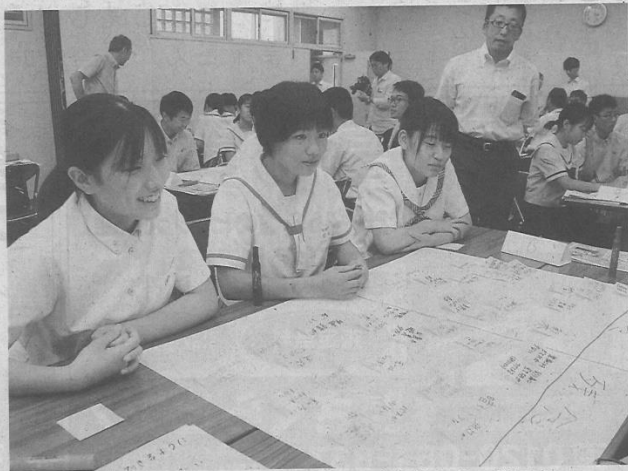
浅田敏彦市長が市内の医療福祉や教育の現状について紹介。市職員が総合計画の概要や、市の人口が現在の約5万3千人から、2060年には約3万6千人に減少する可能性があることなどを説明した。

ワークショップは9グループに分かれ、自分の将来の夢や、荒尾市の「好き」「嫌い」など、それぞれ紙に書き出した。

生徒からは「グリーンランドや、世界遺産の万田坑がある」大型ショッピングセンターがなく、買い物や「不便」などの意見が出た。

市は今回の意見を庁内で共有。反映させた総合計画を19年度末までに示す。

(樋口琢郎)



荒尾市の未来について話し合う中高生たち＝荒尾市

●令和元年 8月 29日 有明新報



# 将来のまち考える

## 中高生50人 想像力豊かに 新たな総合計画へ反映

2020年度から5年間の計画期間となる。荒尾市総合計画(仮称「第6次総合計画」)の策定に向け、市役所で開かれたワークショップで、市内の中高生約50人がワークショップを行い、まちづくりのアイデアを提案した。

ワークショップは、未来の荒尾を想像するワークショップとして、参加者は9つのグループに分かれて、夢や目標、若くは世代の悩みや、その後の関心や土地の魅力を、グループごとに発表し、市役所職員がメモを取っていた。

参加者は、市役所職員から、ワークショップの目的や、ワークショップの進め方、ワークショップの成果の活用方法などについて説明を受けた。

ワークショップの参加者は、ワークショップの目的や、ワークショップの進め方、ワークショップの成果の活用方法などについて説明を受けた。

# 避難勧告発令で警戒

大牟田と南関 土砂災害の危険続く

前線が近づいた影響で、大牟田と南関の両市で土砂災害の危険が続いている。九州地方では梅雨の季節に入り、大雨が降った。気象庁は後地方に大雨特別警戒を要。大牟田と南関の両市で土砂災害の危険が続いている。

荒尾

大牟田と南関の両市で土砂災害の危険が続いている。九州地方では梅雨の季節に入り、大雨が降った。気象庁は後地方に大雨特別警戒を要。大牟田と南関の両市で土砂災害の危険が続いている。

大牟田と南関の両市で土砂災害の危険が続いている。九州地方では梅雨の季節に入り、大雨が降った。気象庁は後地方に大雨特別警戒を要。大牟田と南関の両市で土砂災害の危険が続いている。